事例No.	3670
公表年度	R7
団体の属性	一般市
団体名	岡山県真庭市

事例区分	広域連携

タグ	・事務の共同実施 ・関係人口 ・観光

事例種類	脱炭素・GX

事例内容・タイトル

広域連携SDGsモデル事業

出典

地方自治研究機構　先進事例調査研究（令和7年度）

広域連携 SDGs モデル事業

取組のあらまし

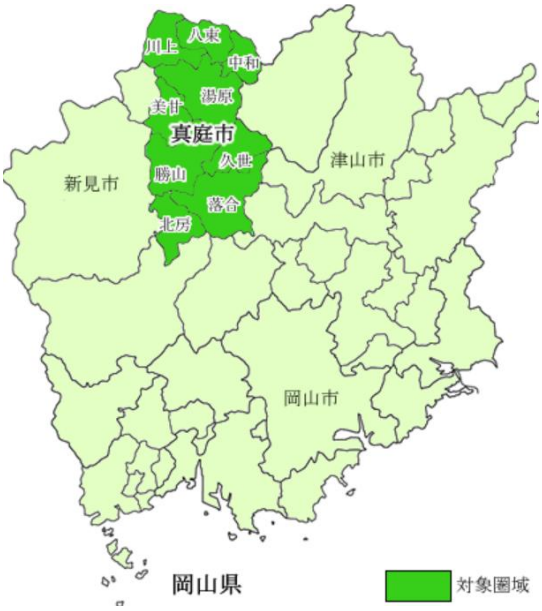
取 組 団 体　岡山県真庭市、岡山市、倉敷市、西粟倉村
（令和６年度から）備前市

取 組 内 容　SDGs 本モデル事業は、岡山市・倉敷市・真庭市・西粟倉村、備前市の５者が連携し、観光振興と地域課題解決を両立させる仕組みを構築する取組であり、各市村の強みを生かし連携している。

1　岡山県真庭市の概要

人　　口	40,778 人	令和７年１月１日現在（住民基本台帳人口）
職 員 数	423 人	令和６年４月１日現在（一般行政部門）
総 面 積	828.53 ㎢	令和７年 10 月１日現在（国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」）

図表 1　真庭市



出所：真庭市　ホームページ

２　取組の背景・目的

(1) 取組の背景

※令和６年度からは備前市も加わり事業も広がりを見せているが、本件記事においては協議会設立当初の内容を記載している。

岡山県北部の真庭市・西粟倉村、南部の岡山市・倉敷市は、いずれも「SDGs 未来都市」に選定されており、それぞれ地域の特徴を生かした SDGs 推進に取り組んでいる。岡山県ではこれら５自治体を含め、複数の未来都市が連携することで、SDGs の理念（経済・社会・環境の統合）に基づき、地域の活性化を図ることが期待されている。一方、県内の SDGs への取組浸透率は依然５７％程度と高い水準にはなく、全域への普及には課題が残っていた。さらに、新型コロナの影響で県内観光客数は約２割減少、観光バス利用者は約８割減、宿泊者数も３割以上減少するなど、地方観光の振興策が喫緊の課題となっていた。

このような社会的背景のもと、政府は「広域連携 SDGs モデル事業」を創設し、小規模自治体を含む複数自治体が広域で連携し、スケールメリットを生かして地域課題に取り組む好事例を選定・支援していた。これに対して真庭市が提案代表となり、岡山市・倉敷市・西粟倉村の４自治体による広域連携 SDGs モデル事業案「Sustainable Value Creation Tour」を提案した。

提案後、令和４年５月に内閣府に選定され、選定直後の５月末には「岡山 SDGs 未来都市連絡協議会（仮称）」の設立会議が開催され、モデル事業の概要説明と協議会設置、役員選出、事業計画・予算案の検討が行われた。同年６月には事業計画書（「広域連携 SDGs モデル事業計画～Sustainable Value Creation Tour～」）を策定し、政府補助金を活用した事業が展開された。

(2) 取組の特徴

本モデル事業は、岡山市・倉敷市・真庭市・西粟倉村の４者が連携し、観光振興と地域課題解決を両立させる仕組みを構築する取組であり、各市村の強みを生かし連携する点が特徴である。

例えば、都市機能や観光拠点を持つ岡山市・倉敷市では ESD（持続可能な教育）や産業観光が、森林資源を活用する西粟倉村では森林バイオマスや森林ファンド、再生可能エネルギーが、エネルギー自給を進める真庭市ではバイオマス発電や木質エネルギーが各取組の柱となっている。これらの地域資源・取組を結集し、広域コースとして“SDGs 体感ツアー”を実施する構成となっている。

3　取組内容

(1) Sustainable Value Creation Tour

本事業の中心コンテンツは、岡山県内４未来都市を巡る「SDGs 体感ツアー（Sustainable Value Creation Tour)」である。ツアーは複数のコースに分かれ、県内全域の地域課題や魅力を「体験」を通じて伝える仕組みとなっている。これにより、観光振興とローカル SDGs の可視化を同時に図る点が特徴である。

以下、各コースの概要を示す。

図表 ２　Sustainable Value Creation Tour

出所：真庭市・岡山市・倉敷市・西粟倉町「広域連携 SDGs モデル事業提案資料」

ア 自ら取り組む環境保全コース

児島地区（倉敷市）と岡山市を巡り、地場産業や廃棄物処理の現場を訪問するコースである。ジーンズ生産の伝統を持つ児島では繊維産業の環境配慮技術を学び、岡山市内では食品廃棄物のバイオディーゼル化や総合リサイクルセンターを見学する。参加者は「自ら循環型社会の担い手となる」意識で、地域の産業と環境保全の両立を体感できるプログラムとなっている。

イ 脱炭素社会の実現に向けてコース

西粟倉村・真庭市の林業・エネルギー先進地を巡る。西粟倉村では「百年の森」「地熱供給センター」などの森林バイオマス・再エネ施設を訪れ、地産地消型エネルギーの取組を視察する。真庭市ではバイオマス燃料基地やバイオマス発電所を見学し、村市合同で「脱炭素社会の試み」を一日で体験する。参加者は「森林資源を活用したエネルギー対策」に触れ、脱炭素社会への理解を深めることができる。

ウ 海と陸のつながりコース

浅口市・倉敷市と真庭市を巡り、海洋環境と山間地域の循環を結びつける。寄島（倉敷市）では漁師による海岸清掃や海底ゴミステーションを見学し、真庭市ではホタル保護や家庭ゴミ堆肥化、農家の循環農業など山里の環境取組を視察する。このほか、地域で開催される「SDGsDAY イベント」に参加し、海と陸の環境課題解決を体感することができる。

エ 心地よい居場所コース

岡山市・倉敷市・真庭市・西粟倉村を２日間で巡る宿泊コースである。芸術文化施設や福祉活動の現場を訪れ、「誰一人取り残さない」地域づくりの工夫を体感することが狙いだ。１日目は岡山農業高校の農産物レストラン、夕食に真庭・蒜山のサステナブルレストランで地元食材を堪能し、宿泊は新設のマリオットホテルでのエコ体験とした。２日目は西粟倉村での森林利活用や地域交流イベントを組み、生活の質と安心感を重視したまちの魅力を実感できる。

(2) サステナブルツーリズム人材育成プログラム

広域連携 SDGs モデル事業の一環として、SDGs ツアーの企画運営に伴い、地域における持続可能な観光振興に係わる人材や、SDGs の取組を伝えるガイド等の育成のため、和歌山大学と連携しサステナブルツーリズム人材の育成プログラムの企画運営を実施した。

令和 4 年度は、以下 3 つのタームでプログラムを実施した。

【プログラムの概要】

- 第 1 ターム：令和４年 11 月 4 日（金曜日）　オンライン講座（基礎学習）
- 第 2 ターム：令和４年 12 月 7 日（水曜日）　勝山木材ふれあい会館ほか（振り返り及び真庭市内フィールドワーク）
- 第 3 ターム：令和５年 2 月 2 日（木曜日）　西川アイプラザ（午前シンポジウム、午後とりまとめ及び報告会）

図表 ３ （2）サステナブルツーリズム人材育成プログラム開催の様子

出所：真庭市 HP

（3）取組の推進体制

本モデル事業は、岡山市・倉敷市・真庭市・西粟倉村の４者が連携し、観光振興と地域課題解決を両立させる取組であり、実施体制としては、各市村長らが参画する岡山 SDGs 未来都市連絡協議会を事業主体として、事業が推進されている。

具体的な各事業は「岡山 SDGs 未来都市連絡協議会」が主導し、地域 DMO（真庭観光局）や旅行会社（両備ホールディングス・JTB)、和歌山大学と連携して進めている。ツアー運営は将来的に旅行業者と地域 DMO が担い、データ収集・分析や「SDGs ガイド」育成も視野に入れている。さらに、和歌山大学観光学部がサステナブルツーリズム人材育成プログラムを企画・運営し、約 20 名を対象にオンライン講義やフィールドワーク、フォーラムを実施している。

4　成果・課題

（1）成果

令和４年末までに４つの体感モニターツアーを実施し、環境保全コース(12/1)では 10 名、脱炭素コース（12/2）では 39 名など、延べ約 50 名の県内外からの参加者が得られた。これらのモニター結果を踏まえ、岡山 DMO や旅行会社と協力してツアー商品化を進めており、プラットフォームを活用して多彩な観光メニューが紹介されている。

また、事業を通じて、持続可能な観光振興に関わる地元企業や学生ら 15 社（団体）ほどがツアー造成に参画しているほか、SDGs を地元に広める「メディア・コンパクト」への参加など、関係機関連携が進展している。計画では令和６年度までにツアー参加者 1 千人、参画企業 15 団体、県内 SDGs 取組自治体割合 70％以上を目標としており、これらの指標に向けた基盤づくりが進んでいる。

加えて、協議会設立後すぐに事業計画を策定（令和４年６月）し、プロジェクト体制と予算を確定させたことも重要な成果である。また、人材育成プログラムでは講師や講座カリキュラムを確立し、約 20 名の県内外参加者に SDGs ツーリズムの知識・技能を伝えた。広報面

では市公式サイトや観光サイトで随時情報発信し、連携して外部メディアにも取り上げられている。令和７年度には備前市（令和６年度参画）のツアーコンテンツ開発を進めており、さらなる広域での連携が一層強化されている。

（2）課題

本取組は、モデル事業実施後間もない段階であり、地域に定着した取組とするためには、引き続き DMO の活動を通じて自走化に向けた運営体制・環境整備を行うことが重要である。地域に根差した取組とするためには、国補助終了後の持続可能な運営スキーム（自治体負担や民間参入）を確立する必要がある。

例えば、データ収集・活用やデジタルツールの整備などの自走化や、ツアー後のフォローや発信、県内テレビ局との連携による情報発信（「SDGs メディアコンパクト」）の構築等が課題である。また、ツアー参加者の裾野拡大やリピーター確保に向けた、プログラム内容やターゲット設定を工夫することや、脱炭素や循環型社会の取組を一般市民・家庭に浸透させるために、ツアーで得た学びを伝えるガイド育成や教育プログラムを継続することも重要である。

関連・参考資料

真庭市：「広域連携 SDGs モデル事業」に選定されました
https://www.city.maniwa.lg.jp/soshiki/3/59120.html
真庭市・岡山市・倉敷市・西粟倉町「広域連携 SDGs モデル事業計画」
https://www.city.maniwa.lg.jp/uploaded/attachment/27924.pdf
内閣府：「広域連携 SDGs モデル事業　Sustainable Value Creation Tour」
https://www.chisou.go.jp/tiiki/kankyo/teian/2022sdgs_pdf/presentation/01_P_maniwashi.pdf
岡山 SDGs 未来都市連絡協議会：「岡山市・倉敷市・真庭市・西粟倉村 SDGs 体感ツアー特集」
https://platform-clover.net/feature/okayama-sdgs-council
※Platform Clover を活用
真庭観光 WEB：体験レポート（環境保全コース、脱炭素コース、海と陸のつながりコース／居場所コース）
https://www.maniwa.or.jp/web/?c=report-1